

株式会社三菱総合研究所 第 52 回定時株主総会
2021 年 12 月 17 日 10:00～
質疑応答(要旨)

1. 同業他社比株価が低迷している。企業価値向上向け、今後どのような経営戦略をとるのか

他社様との株価比較は差し控えたい。当社の経営戦略は、中計2023にあるとおり、社会課題解決企業として、当社の特色を活かした社会実装事業、デジタルトランスフォーメーション事業をはじめとする成長戦略を積極的に展開し、価値創造の好循環を実現することで、企業価値の向上を目指していくもの。また、丁寧な IR 活動を通じ、当社グループの経営理念・事業戦略・事業内容等へのご理解を深め、市場からもご評価いただけるよう努めていく。

2. 今後の株主還元策について教えてほしい

招集通知9頁に記載のとおり、安定配当を基本に配当水準の引き上げに努め、2013年9月期より増配を続けている(直近2021年9月期の配当性向は37%)。当社業績、将来への投資などの資金ニーズ、財務健全性等のバランスを総合的に勘案しつつ、引き続き配当水準の引き上げに努めていく。

3. 資本政策について。2021年6月に売出しを実施しているが、自社株買い実施も検討すべきでないか

6月の売出しは、政策保有株式縮減の潮流をうけ、株主構成拡大・流動性向上を目的に実施したもの。結果、三菱グループの保有割合は約5割となり、また流動性も改善、実施目的は達成したと考えている。自社株買いは流通株式を減少させることになり、目的である流動性向上とは矛盾が生じるため実施しなかった。株主様への還元策はさまざま考えられるが、業績や将来への投資などの資金ニーズ、財務健全性等のバランスも総合的に勘案しつつ、検討していく。

4. 水原氏の取締役会欠席(6回出席/全8回)理由は

怪我による療養により、出席できなかったため。

5. 利益率について。単体と連結を比較すると、連結の利益率が低い。つまり子会社の利益率が低いことになるが、今後の子会社運営についての考え方を教えてほしい

グループ各社がそれぞれの得意分野を活かし、互いに補完しあいながらグループ全体で事業推進を図る、これが当社の成長戦略。「新常態」「デジタルトランスフォーメーション」などの重点テーマについて、連結ベースで利益を上げていく。当社と三菱総研 DCS に連結でのベネフィットを図る一体型組織を設置し、連結経営推進にあたっている。当社と DCS、さらには持分法適用会社との連携をより強化することで、当該分野を伸ばし、ひいては利益率の向上を図る考え。